

■ 編集委員

海老原康博（編集委員長）

秋岡 祐子 片桐 岳信 小林 国彦 千田みゆき 名越 澄子

堀江公仁子 町田 早苗 Chad L Godfrey（五十音順）

■ 編集後記

毎日猛暑が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

令和6年度が始まり、3ヶ月が経過しました。新しく埼玉医科大学に入学された学生や入職された教職員の皆様は新しい環境に慣れてきた頃かと思えます。

埼玉県ということもあり、話題となっているのが、7月に20年ぶりに紙幣が刷新され、1万円札の図柄に深谷市出身の渋沢栄一が起用されたことでしょうか。偽造できないように新しい工夫がいろいろ施されているようです。金融系はデジタル化が進んでいますので、最後の紙幣刷新との噂もあります。新札フィーバーも起きているようなので、早く手に取ってみたいと思います。本号が発行される頃にはよく見かけerようになっていくのでしょうか？また、7月下旬からはパリオリンピックが開催されます。猛暑を吹き飛ばしてくれるような、日本選手の活躍に期待が高まります。

さて、埼玉医科大学雑誌51巻1号をお届けします。

本号には「学術集会報告」として、4報が収められ、それぞれ mRNA ワクチン、乳がん、小児救急、医学英語教育を話題として各分野のスペシャリストの公演内容がまとめられています。一読する価値は十分ある内容となっています。

また、医学会 Grant 報告として、「国際学会参加支援 Grant 報告書」が2報あります。埼玉医科大学医学会では若手研究者の研究活動の支援を目的として、5年間の限定 Grant ですが、今年度から「若手研究支援 Grant」と「国際学会参加支援 Grant 報告書」との2つの Grant を新設しました。その1つです。円安基調にある中、若手研究者の国際学会での発表を後押ししていただけるとともに、若手研究者にとっては異文化に触れる良い機会でもあります。国際学会で発表したい若手研究者の積極的な応募を期待します。

本号では原著論文や症例報告を掲載していません。埼玉医科大学では、さまざまな研究が行われています。毎年11月に開催される「研究の日」でたくさんの研究成果の発表がみられることから明らかです。しっかりと専門家の査読が行われますので、特に若手研究者にとって論文投稿の手始めとして、埼玉医科大学雑誌はお薦めです。埼玉医科大学雑誌は J-STAGE にも公開されていますので、世界中の研究者が閲覧することになります。

最後に、この7月に埼玉医科大学雑誌の投稿規定を改定しました。一部わかりにくい表現を変え、「論文の書き方」を加えて投稿者にわかりやすくしました。また、電子投稿も採用しました。SMSNET などを通じて広く周知されています。詳しくは本号の埼玉医科大学雑誌投稿規定をご覧ください。また今後は、この改訂に沿った形での投稿をお願いします。

研究成果の投稿先の一つとして埼玉医科大学雑誌を考えて頂けたら幸いです。皆様の投稿をお待ちしています。

（海老原康博）

埼玉医科大学雑誌

<https://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第51巻 第1号

編集責任者

海老原 康博

令和6年8月16日 印刷

令和6年8月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話 049 (276) 2102/2030 (直通) FAX 049 (276) 1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

製作

レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町 809 番地の 5 電話 (082) 844-7500 <https://letterpress.co.jp/>